

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：82610

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12151

研究課題名(和文) 病棟看護師の患者教育能力向上を支援する教育プログラムの開発と有効性に関する研究

研究課題名(英文) Study on the effectiveness and development of a continuing education program in nursing to support ward nurses improvement of patient education competency

研究代表者

上國料 美香 (Kamikokuryo, Mika)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・国立看護大学校 准教授

研究者番号：10632200

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、病棟看護師の医療事故防止能力向上を実現する教育プログラムの開発を目的とする。目的の成に向け次の1)2)3)を行った。1)病棟で展開される患者教育に関わる問題と患者教育能力に関する病棟看護師の特性の解明。2)1)の結果と先行研究、文献検討に基づき、「病棟看護師の患者教育能力向上を支援する教育プログラム」を作成。3)作成した教育プログラムの実施。結果は、作成した教育プログラムの有効性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、先行研究の成果である病棟看護師が直面する患者教育に関わる問題と患者教育を展開する能力に関する病棟看護師の特性を基盤に「病棟看護職者個々の医療事故防止能力向上を実現する教育プログラム」を開発したことである。本プログラムを用いた病棟看護師への教育の提供は、科学的根拠に基づく院内教育の提供、につながる。また、その成果は、病棟看護師の患者教育を展開する能力の向上とともに、効果的な患者教育につながることを期待できるという社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to develop an educational programme to improve ward nurses' ability to prevent medical accidents. To achieve this aim, the following steps were undertaken: 1) Identification of issues related to patient education that arise in hospital wards, as well as the characteristics of ward nurses' patient education skills; 2) Based on the results from step 1, previous research, and a literature review, an 'education programme to support the improvement of ward nurses' patient education skills' was developed; 3) The developed education programme was implemented. The results demonstrated the effectiveness of the created education programme.

研究分野：基礎看護学

キーワード：患者教育 看護継続教育 教育プログラム

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

患者教育は、従来、看護師の役割とされてきた(森山,2011; Balcou-Debussche et al., 2008)。しかし、患者教育の目標達成は難しく、看護師は、患者教育を展開する際、他業務の多忙さ(Latimer,2021; Che et al., 2018)、時間確保の難しさ(Fawkes et al., 2019)、教育内容を示した資料の乏しさ(Lahl et al., 2013)、患者の身体状況の見極め(屋久ら, 2020)、家族や支援者からの協力を得られない(中川ら, 2020)、自信がない(Che et al., 2018)など、多様な問題に直面している。また、患者教育は、1972年にアメリカ病院協会が「患者の権利章典」を發表し、自身の診断や治療等の説明を受ける権利を示したことを契機に、看護師に不可欠な機能としてあらためて捉えられるようになった。日本に目を転じると、1994年の第二次医療改正に伴い、医療費抑制を意図した入院日数の短縮化を契機に、患者が退院後も安全に療養生活を継続できるよう、看護師が患者や家族に知識と技術を提供することが一層必要になっている。

病棟看護師は、糖尿病教室のようにある程度形式化された教育を行うとともに、下膳時に栄養指導をしたり、シャワー浴の介助を行いながら入浴時の留意点を説明したりするなど、日々の関わりに織り交ぜて教育を行うこともある(森山, 2011)。しかし、これまで、後者の形式はあまり注目されてこなかった(東ら, 2015)。病棟看護師個々による、両形式を含む患者教育を展開するために必要な能力(以下、患者教育展開力)の修得、向上のためには、看護継続教育を通じた支援が不可欠である。しかし、国内外の先行研究を検索した結果、病棟看護師が患者教育展開力を高めるための教育プログラムは開発されていなかった。

そこで、筆者らは、「病棟看護師の患者教育展開力の向上」目的とする教育プログラムを開発することを目的とする研究に取り組んでいる。本研究は、この教育プログラムの有効性を検証する。

2. 研究の目的

病棟看護師を対象とした患者教育展開力向上を支援する教育プログラム(Educational programme to support ward nurses to improve their patient education competency, 以下、EPPEC)の有効性を検証すること。

3. 研究の方法

1) 研究対象

研究対象者は、看護管理責任者から研究協力への承諾の得られた病院の病棟に勤務するスタッフ看護師(以下、病棟看護師)とした。認定看護師や専門看護師、役職をもつ看護師は、独自の役割をもっているため研究対象外とした。

2) 「病棟看護師を対象とした患者教育展開力向上を支援する教育プログラム」の実施とデータ収集

研究協力を得られた3施設の病棟看護師を対象に教育プログラムを実施した。教育プログラムは、日々の看護活動の中で患者教育を展開しその目的を達成する看護師の行動(森山ら, 2008)及び患者との相互行為(森山ら, 2013)に関する知識とともに形成的自己評価を組み込み構築された。教育プログラムの実施、及び、データ収集時期は、新型コロナウイルス感染症が2類感染症に区分されていた期間であった。そのため、教育プログラムの開催形式は、3施設や所在都道府県の新型コロナウイルス感染症流行状況に応じ、現地での集合教育、もしくは、オンラインを用いた同時双方向により実施した。いずれの開催形式であっても、教育プログラムの展開は同じであった。

教育プログラムの有効性を検証するため、①②③の測定用具を用いた。①病棟看護師の患者教育を展開する能力を測定するための「患者教育力自己評価尺度-病棟看護師用-(8下位尺度29項目)」(上國料ら, 2017)、②研究対象者の特性(看護師経験年数、病棟所属年数、年齢等)を問う多肢選択式質問、③研究対象者の患者教育や自身の能力に対する知覚を問う自由記述式質問。また、縦断的に教育の成果を把握できるよう研究対象者が設定した任意の識別番号を収集した。

教育プログラム実施前に、①②を用いた調査を行った。また、教育プログラム実施後、及び、1か月後、2ヶ月後に②を用いた調査を行った。実施後の調査結果は、測定用具の無記名個別投函による収集、もしくは、ウェブ調査、1か月後と2ヶ月後の調査は、全てウェブ調査とした。2ヶ月後の調査時、③を用いた調査を追加した。

調査時期は、2022年12月から2023年3月であった。

3) 分析方法

本研究の調査票、及び、ウェブ調査を用いて収集する量的データは、記述統計による集計、群間の差の検定(t検定、多重比較検定)を行った。ウェブ調査を用いて収集する自由記述は、記述内容に基づき質的に分析した。これら、量的分析結果と質的分析結果を用いて多角的に有効性を検証した。

4. 研究成果

1) 研究対象者

研究対象者は、機縁法を用いて探索し、看護管理責任者から研究協力への承諾の得られた3施設で教育プログラムを実施した。3施設は、関東甲信越、及び、関東に所在する中病院であった。教育プログラムに参加した病棟看護師は、計33名であった。33名のうち、教育プログラム前後、及び、1か月後、2ヶ月後の計4回全ての調査に回答のあった16名の回答を分析対象とした。16名の看護し経験年数は平均9.3 (S=D6.2)年、2.8 (S=D2.0)年であった。所属する病棟は、混合病棟6名(37.5%)、一般病棟(外科系)2名(12.5%)、一般病棟(内科系)2名(12.5%)などであった。

2) 教育プログラム参加者の「患者教育力自己評価尺度—病棟看護師用—」得点の変化

分析対象者16名が獲得した「患者教育力自己評価尺度—病棟看護師用—」の総得点は、教育プログラム前が平均100.6 (SD=10.1)点、教育プログラム後が平均100.7 (SD=10.5)点、1か月後が平均110.2 (SD=13.3)点、2ヶ月後が平均118.3 (SD=19.6)点であり、教育プログラム受講後、形成的評価を重ねる毎に上昇した。多重比較の結果は、研修後と1ヶ月後 ($p=.005$)、2ヶ月後 ($p=.05$) の間に有意差があることを示した。

分析対象者16名が獲得した下位尺度Ⅰ【患者教育に必要な情報を収集する】の得点の平均値は、教育プログラム直後が9.9点、1ヶ月後が10.4点、2ヶ月後が12.0点であり、教育プログラム直後と1ヶ月後の間に変化は見られなかったものの、2ヶ月後は上昇した。また、形成的評価を重ねるとともに下位尺度得点が上昇する傾向は、下位尺度ⅡからⅧの概ねすべてに共通して認められた ($p<0.1$)。

3) 教育プログラム参加者その参加に対する知覚

「患者教育に対する理解や考えに変化はありましたか」という質問への回答には、「以前は指導の時間を改めて作って教えるということに重きをおいていたが、現在は日常のなかでも患者の理解や疑問を情報収集し、ケアに活かそうという気持ちに変化した」「以前は看護師中心とした指導をしていたが個性を取り入れてみようと考えようになった」などの回答があった。

「患者教育への取り組みや行動は、どのように変わりましたか」という質問への回答には、「日常生活援助の中でも、教育的関わりをすることを再認識し、後輩スタッフにも関わりの場を意識してみるようになり、承認するようになった」「以前よりカンファレンスを行いながら個性の高い教育プランを立案するようになった」などの回答があった。

以上2)と3)より、「病棟看護師を対象とした患者教育展開力向上を支援する教育プログラム」の有効性が確認された。新型コロナウイルス感染症流行中の教育プログラム実施であり、研究参加者数が少ないことは、本研究の限界である。今後、教育プログラムの検証を継続することは課題である。

<引用文献>

- Balcou-Debussche M, Debussche X. (2008). Type 2 diabetes patient education in Reunion Island: perceptions and needs of professionals in advance of the initiation of a primary care management network. *Diabetes Metab.* 34(4 Pt 1):375-81
- Che HL, Yeh MY, Jiang RS, Wu SM. Taiwanese nurses' experiences of difficulties in providing patient education in hospital settings. *Nurs Health Sci.* 2016;18(1):113-119.
- 東めぐみら. (2015). 「看護の教育的関わりモデル」を用いたアクションリサーチ. *日本看護科学会誌*, 3:235-246
- 上國料美香ら. (2017). 「患者教育力自己評価尺度—病棟看護師用—」の開発. *国立看護大学校研究紀要*, 16(1):10-17.
- 森山美香ら. (2008). ベッドサイドの患者教育を展開する看護師行動の解明 : 目標達成場面に焦点を当てて. *看護教育学研究*, 17 (1):50-63
- 森山 美香. (2011). わが国におけるベッドサイドの患者教育に関する変遷 : 近代看護のはじまりから現代まで. *看護教育学研究*, 20(1):30-43
- Latimer, S. L., Deakin, J. L., Chaboyer, W. P., & Gillespie, B. M. Feasibility and acceptability of implementing a patient education pressure injury prevention care bundle in acute care: an interview study. *Wound Practice & Research.* 2021;29(3):163-170.
- 中川恵ら. (2020). 下部尿路症状を訴える患者および家族に対して皮膚・排泄ケア認定看護師が行う排尿日誌の指導と活用における困難感. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*, 24(1):19-24.
- 屋久裕美ら. (2020). レボドパ・カルビドパ配合経腸用液療法導入に対する患者・家族の思いと看護師が感じた指導上の困難. *鹿児島大学医学部保健学科紀要*, 30(1):15-22.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上國料美香
2. 発表標題 病棟看護師が展開するベッドサイドでの患者教育に関する研究：問題直面状況と関係する特性の解明
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上國料美香
2. 発表標題 病棟看護師の患者教育を展開する能力に関する研究 問題直面経験有無との関係に焦点を当てて
3. 学会等名 第38回 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上國料美香, 舟島なをみ
2. 発表標題 病棟看護師のベッドサイドでの患者教育を展開する能力に関する研究 - 問題直面状況との関係に焦点を当てて -
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	舟島 なをみ (Funashima Naomi) (00229098)	清泉女学院大学・看護学部・教授 (33605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------